

電力緊急制限の爲め 東北配電會社と共に 平地區民主電力協議會

一般大衆に猛運動展開す。進ませた、大野國民學校講
二月一日より全國的電力制室に九百四十六名を集め刷
限に馬力をかけ一般大衆委員馬島上豊氏早川委員
用量の節電を實行し重要産東北配電山野邊の三名出席
業には一キロの電力でも送し各員より各家庭の日中電
電し再建日本の一日も早く電を消せば大野村の農村
實現致すべく本運動に進み電化に依るモーターが五百
つゝ居る

四倉民主電力協議會は
各學校児童に呼かく
去る二月一日より運動せる
四倉國民學校講室に千八百
二十八名を集め全國の電力
事情と一般家庭の節電を菊
地委員長一時間に亘り講演
即日節電實施せられたと共
に配電會社員出勤検査に休
業を實行七十家庭の不意者
を摘發した、久ノ濱國民學
校講室千七百六十二名を集
め委員全員出席東北配電
り七海武雄氏と委員長菊地
高位氏の兩名一時間半の講
演をして當日節電實行せり
大浦國民學校講室に児童青
年學校生徒千三百六十七名
を集め早川委員より電力緊
急制限と各家庭の節電を一
七百名三十名を集め木戸村及
龍田村委員全部出席菊池委

員長東北配電七海氏演壇に校の先生児童生徒にホスタ
立て本縣内の電力は各郡の一標語を書して街頭にはり
如くに一日置きに停電にな一般大衆と委員と先生と審
つて居る時皆さんの家庭で査して一等より十五等まで
日中不用電燈を付て居るか貨品を贈る事にして節電に
ら消して下さいと注意を行協力を願つて居る、四倉民
いの製塩所や炭礦や製材所員會を開き一月二十八日
は再建日本の爲め一日も搖蕩縣民聯合會の経過報告及今
がせぬ重要な工場であ後の節電の方法と變壓器愛
り汽車の動けなれば石炭不護自治會の委員監督方電球
足で私達の味噴嚙油不配給至急五千個買入の件決定尙
は省の不足で引揚者戰災者一般大衆に節電協力制限解
は住宅不足であり之を皆さ消の時不足の電球を配給
んの心がけ一つで重工業の消の時は不足の電球を配給
電力も送るのでありますから協議會委員は努力よ
ら各家庭で居る時と晝の電を消す事に協議會委員は努力よ
ら各家庭で居る時と晝の電を消す事に協議會委員は努力よ
ら各家庭で居る時と晝の電を消す事に協議會委員は努力よ
ら各家庭で居る時と晝の電を消す事に協議會委員は努力よ

民主電力協議會 十五日より 猛運動展開す

山内委員立て私にたばの
先生で皆さんの家を一軒毎
に廻り購買すから電氣消
さない家はすぐ知るから注
意して下さいと閉閉した
龍田國民學校講室に千三百
五名集て龍田木戸の兩委員
全部出席東北配電七海氏よ
り三十分の電力の話が有り
替て菊池委員長四十分の電
氣と一般大衆の節電の話が
有り替て山内委員より木戸
村の如く話をして即日實行
に進んだ、尙四倉民主電力
協議會では節電に對し各學
校の先生児童生徒にホスタ
立て本縣内の電力は各郡の
一標語を書して街頭にはり
如くに一日置きに停電にな
一般大衆と委員と先生と審
つて居る時皆さんの家庭で
査して一等より十五等まで
日中不用電燈を付て居るか
貨品を贈る事にして節電に
ら消して下さいと注意を行
協力を願つて居る、四倉民
いの製塩所や炭礦や製材所
員會を開き一月二十八日
は再建日本の爲め一日も搖
蕩縣民聯合會の経過報告及
今がせぬ重要な工場であ
後の節電の方法と變壓器愛
り汽車の動けなれば石炭不
護自治會の委員監督方電球
足で私達の味噴嚙油不配給
至急五千個買入の件決定尙
は省の不足で引揚者戰災者
一般大衆に節電協力制限解
は住宅不足であり之を皆さ
消の時不足の電球を配給
んの心がけ一つで重工業の
消の時は不足の電球を配給
電力も送るのでありますから
協議會委員は努力よ
ら各家庭で居る時と晝の電
を消す事に協議會委員は努
力よ

良品廉賣に優る商略なし

釜屋商店

會計 諸 橋 元 三 郎
平市五丁目 電話九番九九番

酸漿機具一般
タツブダイス工具一式
メタル、ブロー、シヤフト類
機械と工具専門

佐藤鐵工販賣部

會社
營業所 平市四丁目マルトモビル
工場 平市 月 見 町
電話 平一二四、三六二、七三一

セメント瓦の御用命は
信用ある吾が社に
ガス溶接の整備を急いで居ります、出張請負の
御用命もうけたまはります。

共榮合作坂本興業所

社長 坂 本 豊
事務所 石城郡大浦村上仁井田
常盤線四倉驛徒歩七分

新設電話一〇〇八番
食料品
卸問屋

高野正男商店

平市南町十七番地

電氣の正しい使い方

運動に關する御知らせ

昨秋以來電力事情は其の生ぬことは申すまでもありま
産と消費とが均衡を失い剩せん日本發送電や東北配電
え濁水の爲水力による發電でも色々方法が講じてい
力は減退し火力發電所も戦る様ですが此のまゝでは停
災を蒙つたり賠償の對象と電制限以外には方法が無く
なり又々石炭の獲得が意のなり二月一日から東北全般
如く参りませんので電力不に實施された様な悲しい状
足は其の極に達して居りま感です、そこで客年末國民
す、其の上二月ともなれば大衆の盛上る力による電力
寒さの爲河川の水が著しく消費の各階各層から送られ
減つて發電力は不足のごんた代表者によつて設立され
底に達するのであります之れ本會では目前に迫る停電
が爲に現在既に吾々は電燈制限の打開策として日發配
や電力の使用制限をされて電に要求の上社員を動員し
居りますものゝ實際には其で近く各需用家を戸別に訪
の効果が充分上つてないといふ電氣の使い方を見て
云う事です。そんなことで頂き現在の消費制限状況を
はごうしても此の危機が切調査し實効を擧げると共に
抜けれないといふので停電の様な諸點を解消せし
電制限と云う方法、即ち電事により消費電力を減少し
燈や電力線を一定の時間變そして停電制限などは實施
電所で停めるより外に方法されないので済む様にしたい
はないと云うことです、去從來の様な會社から検査さ
年中から關東では一日隔されること云う様なことなく他
に關西では四日に三日の停送も吾々需用家の自覺によ
電を實施されて居ります今互に啓蒙自肅し合う建前一
でも電燈が暗いラジオは聞で積極的建設的にやる此の
えない停電も多い其の上關運動に共鳴されて實績の上
東關西の様ながあつてる様に御協力の程御願ひ致配電
は其の不便迷惑は並々ならず、追而此の記事を讀の別
なれた方は左記の點を特に「ト」需用家の節電夜間電
近隣へ吹聴宣傳して戴き隣燈の全消燈と監視に當り活
組には不合理無駄な電氣の動して居る
使用者が一人もいない様に御
協力下さる様様重ねて御願
致します

一、電氣會社に承認を受け
ないで使つて居る電熱器
電燈はないか
二、不要の電燈を點火して
はいないか
三、動力其他の需用で不合
理な使方をしてはな
か
モーターの空轉防止、モ
ーターの清掃勵行、ベア
リングの注油勵行、プ
リーの中心狂い直し、不
用プリーの取外し、ベ
ルトノたるみ取り、シャ
フトノ曲り直し等

平地區民電力協議會
節電と共に變壓器愛護
廻覽板を全地區配布す
平地區民電力協議會は二月一日よ
の電力事情に鑑みて全産
業の原動力たる常盤炭礦に
大増産に全力を盡すには第
一電力を送れと全地區委員
の点の盡力を希望する

業者の爲めの
商會議所？
目前の問題の
解決希望

當局は關の締出しにやつき
となり拂底して居る商品は
に努力して居る、此の時に
當り一番苦境に立つのは一
般商店である、從來の仕入
が高くなつて居るため今ま
で規定されて居るもので
損害は小商店の一大驚感と
なる此の場合商會議所が
當局との間に一定の日
又は仕入原價を公示せしめ
手持品の販賣を許可させて
はどうか統制と同時に商品
の買りおしみや裏街道に流
れ店頭から商品の姿を消す
ことは一般需要家も生活上
の点の盡力を希望する

石川洋服店
平市銀座通り
電話九五八番

和洋帳簿
紙製用品
小間紙
文房具
事務用品
尾張屋商店
福島縣平市五丁目
電話九四七番

新扇屋
かるい御食事と喫茶
氣分の良い別室で
平市田町一番地
電話八四五番

松村醫院
泌尿器科 消化器科 皮膚科
呼吸器科
福島縣平市白銀町
電話一〇七番

守山天幕屋
リックシャツ 附屬品上等揃つています
帆布地 雨具
路カバン
平市五丁目平醫院前

永山洗濯舖
平市大町
舖主 永山 眞彦
電話六〇六番

織田齒科醫院
平市南町
織田 豊太郎
電話四一六番

縣で一千萬圓の寶籤を發行する

獎金一等一萬圓五本

縣では一千萬圓の寶籤發行すべきの方法は市町村役場を
し三百六十萬圓を備けて戦通じ町内會部落會の希望を
災復興戰災者引揚者援護民まごめる事を原則とするが
生安定の施設をする事にな物銀の賣さばき網として各
つた、發行期は四月初旬に組織團體職域販賣など市長地
つてが名稱は第一回は福力事務所長を中心にして色々の
高縣復興寶籤とする等す
▲發行額は一千萬圓で一等するの目的
十圓で十萬枚を一組として
十組百萬枚計一千萬圓を發
行する、賣出期間の十日後
に抽籤し其の週間後から當
籤金の支拂へを始める、賞
額一等一萬圓五本、二等
一萬圓三十本、三等百圓
一千圓二百本、四等二千
本、四等二千圓二十本、
五等のトツを切り完遂ひ
等十圓一萬八千本總額當
り三十一萬圓、外に特賞
三位が田村郡第四位が
二千五百圓程度の品二本
▲全波ラジオ受信機一
台、位で進み居るが殘
部も前力の官吏様は居
ないぬうらめしや
以上の内甲賞五百圓程
度の品十本、洋服地一
着、脱穀機、信夫郡未
完遂十一ヶ村、機一、
農機具の内、乙賞伊達
郡十ヶ村未完遂ひだ
五ヶ村程度の品百本、
自轉が大獎勵中、安
積郡完遂し食糧不足の
今日大量の甘藷先きに
平市では木炭配給の
責任を有するに拘ず
之れ進め縣下幾多の
勞組に魁が模範工場
であり勞組指導
着の内、丁賞十圓程
度の品完遂が一ヶ村、
耶麻郡完遂そのまの
甘藷を主食代用を増
すに外ならず、依て
町重きを以て罰する
べきである、然るに
一俵五百圓の罰

縣供米もいま一歩

縣では縣下各商店にて一個り居つた事は全く其筋の無
一圓賣りの餉の原料を調査罷も甚だしく之れ其筋の
に縣衛生課の手で調べた結行動を見て官廳に頼存し
果甘藷及び糯米が原料であつて國民生活の安定を得る事
る事判明した依て二月末縣は寧ろ國民の方が無理だつ
下各商店一齊に取り締るとたのか之を考へると今の代
の警告あつたが今以て其手は正直は馬鹿で化学工業的
の打たず各商店では餉の自方法を以て姿を變らし法の
り販賣を續して居る、と細目をくぐる人間は生活の
一十圓三十本、三等百圓一千圓二百本、四等二千
本、四等二千圓二十本、五等のトツを切り完遂ひ
等十圓一萬八千本總額當り三十一萬圓、外に特賞
三位が田村郡第四位が二千五百圓程度の品二本
▲全波ラジオ受信機一
台、位で進み居るが殘
部も前力の官吏様は居
ないぬうらめしや
以上の内甲賞五百圓程
度の品十本、洋服地一
着、脱穀機、信夫郡未
完遂十一ヶ村、機一、
農機具の内、乙賞伊達
郡十ヶ村未完遂ひだ
五ヶ村程度の品百本、
自轉が大獎勵中、安
積郡完遂し食糧不足の
今日大量の甘藷先きに
平市では木炭配給の
責任を有するに拘ず
之れ進め縣下幾多の
勞組に魁が模範工場
であり勞組指導

各商店に於て一ヶ一圓賣の餉

閣取締其筋よりの警告

縣では縣下各商店にて一個り居つた事は全く其筋の無
一圓賣りの餉の原料を調査罷も甚だしく之れ其筋の
に縣衛生課の手で調べた結行動を見て官廳に頼存し
果甘藷及び糯米が原料であつて國民生活の安定を得る事
る事判明した依て二月末縣は寧ろ國民の方が無理だつ
下各商店一齊に取り締るとたのか之を考へると今の代
の警告あつたが今以て其手は正直は馬鹿で化学工業的
の打たず各商店では餉の自方法を以て姿を變らし法の
り販賣を續して居る、と細目をくぐる人間は生活の
一十圓三十本、三等百圓一千圓二百本、四等二千
本、四等二千圓二十本、五等のトツを切り完遂ひ
等十圓一萬八千本總額當り三十一萬圓、外に特賞
三位が田村郡第四位が二千五百圓程度の品二本
▲全波ラジオ受信機一
台、位で進み居るが殘
部も前力の官吏様は居
ないぬうらめしや
以上の内甲賞五百圓程
度の品十本、洋服地一
着、脱穀機、信夫郡未
完遂十一ヶ村、機一、
農機具の内、乙賞伊達
郡十ヶ村未完遂ひだ
五ヶ村程度の品百本、
自轉が大獎勵中、安
積郡完遂し食糧不足の
今日大量の甘藷先きに
平市では木炭配給の
責任を有するに拘ず
之れ進め縣下幾多の
勞組に魁が模範工場
であり勞組指導

物價高度の時局に安すざる

管理米消費者に
一俵五百圓の罰金の
的セネストなどに本心を置
ひていたようだが今年舊正
月十四日十五日の酉小屋焼
を平製作場内勞主一丸とな
つた共榮會は主催となり盛
大なる催しを實施した、此
も管理米は國民生命の確
保と遂行を目的とする食生
らす常に勞主一体となり家
骨子の國策より成る重大な
役割を持つものであると共
に依頼管者は極めて重大な
責任を有するに拘ず之れ
進め縣下幾多の勞組に魁
が模範工場であり勞組指導
着の内、丁賞十圓程
度の品完遂が一ヶ村、
耶麻郡完遂そのまの
甘藷を主食代用を増
すに外ならず、依て
町重きを以て罰する
べきである、然るに
一俵五百圓の罰

木炭の配給

亦も開ゆる木炭の福音
が無斷消費し自腹を肥し國
民の生命を奪ふ行爲である
以上重罪犯であるから最も
の訓導先生に價するもので
ある

正月の西小屋

磔城銘物の備してて舊正月
各自が神棚に上げた神飾物
を十四日の夜から十五日の
朝にかけて焼く事が抑々神
代より行事として永い屋霜
行ひ来たが戦時の悪影響に
より一時其の姿を消し終
後は國民の打落となり古來
の行事など更忘れられて流
行的セネストなどに本心を置
ひていたようだが今年舊正
月十四日十五日の酉小屋焼
を平製作場内勞主一丸とな
つた共榮會は主催となり盛
大なる催しを實施した、此
も管理米は國民生命の確
保と遂行を目的とする食生
らす常に勞主一体となり家
骨子の國策より成る重大な
役割を持つものであると共
に依頼管者は極めて重大な
責任を有するに拘ず之れ
進め縣下幾多の勞組に魁
が模範工場であり勞組指導
着の内、丁賞十圓程
度の品完遂が一ヶ村、
耶麻郡完遂そのまの
甘藷を主食代用を増
すに外ならず、依て
町重きを以て罰する
べきである、然るに
一俵五百圓の罰

村、西白河十ヶ村未完遂はたいこ判最も隣縣宮
石城七ヶ村完遂、相馬郡完城九〇パーセント岩手七一
遂三ヶ村、斯の如き相争ひパーセント二青森四六パー
て供出戦線に前進中なればセント六より見ても本縣は
舊正月中には皆町村の縣下第二位である